

パードゥ大学における健康運動学の協力体験と インターンシッププログラム： 学生の優先傾向についての概要と実証的分析

デビッド・B・クレノスキー

パードゥ大学 健康運動学学科 助教授



要 約

パードゥ大学の健康運動学科は、インターンシッププログラムと臨床ベースのコープ教育プログラムという、専門能力開発の2つのオプションを提供している。インターンシッププログラムは、通常は学部課程の最後の年に修了するもので、健康運動学科が10年以上に渡って提供してきている。健康運動学科を通じて受けられるコープ教育プログラムは、最近作成された個人フィットネストレーニング学位プログラムの必要条件として、つい最近の2006年8月に実施されたもので、個人トレーニングの職業への従事を計画している学生のための、米国で初めてとなる4年間の学位プログラムとして認識されている。プログラムの期間中、学生は8つのコープ教育体験または臨床実践体験に参加し、学内と学外の両方のフィットネス環境において経験を積んでいく。このプレゼンテーションは両方のプログラムについての健康運動学科の体験の概要を示し、最近終了した実証的研究のデータを提示する。その研究ではコンジョイント分析を用いて、インターンシップと協力体験に対する学生の優先傾向に影響を与える、と考えられる要素への影響を調べている。それらの要素は、インターンシップ/協力体験の現場の場所（例：地元かどうか、隣接する州かどうか、国内の他の場所かどうか）、組織の評判（評判の規模が地元かどうか、地域かどうか、全国的かどうか）、支払われる報酬（学生は無給かどうか、最低限の時給かどうか、定額の月給かどうか）、現場監督者の経験（監督者の経験が1～5年かどうか、5年以上かどうか、その分野で評価の高い上層部の人物かどうか）、就職の機会（企業に学生の就職に助力した実績がないか、就職を援助するか、インターンシップ/共同体験を終えた学生をいつも雇用するか）に関わってくる。